

テーマ:

ぼくとわたしと「凜々子」のものがたり

埼玉県

小川町立竹沢小学校

関口安希先生 食育主任

小泉みよこ教諭 須永かおり教諭

井上照栄 栄養教諭 吉田 香織 校務員



この活動の特徴



「凜々子」活用のポイント①

冷凍と冷蔵保存など
様々な場面で「凜々子」を比較観察した

「凜々子」活用のポイント②

収穫した「凜々子」を保護者と一緒に
調理することで、調理や食事の大切さ、
感謝を知り「食への関心」を深めた

活動のねらい



- 野菜を育てることで植物の生長や収穫の喜び、いのちの大切さを学ぶ
- 収穫した「凜々子」を調理することで、食への関心を高める

活動の概要と流れ

対象学年 : 2年生(9名)
実践期間 : 4~9月

時期	学習活動
4月	・「凜々子」畑の準備 (耕す、肥料を入れる、マルチシートを敷く)
5月	・「凜々子」の定植 苗に自分の名前の札を立てた
6月	・芽かき、支柱立て、わら敷きなどを行った ・初収穫
7月	そのまま食べ、味や香りなどを確認した ・夏休み中は先生や水泳に来た児童が収穫し、 冷凍保存した
9月	・「凜々子」の収穫数を確認 ・冷蔵と冷凍保存の違いを観察した ・トマトの栄養について学習した ・ピザの調理実習のための事前学習や準備 ・保護者と一緒にピザパーティー ・畑の片付け



ここがポイント！取組の工夫と実践の成果

少人数で畑栽培にチャレンジした

2年生が全員で9名と少人数だが、畑での「凧々子」栽培にチャレンジした。

苗の到着前からみんなで協力をして畑の準備。耕し、肥料を入れ、畝にマルチシートもかぶせた。

「凧々子」の苗が届き、定植。その後まっすぐ育つように支柱を立て、実に傷がつかないようにワラも敷いた。

始めはとても小さかった「凧々子」の苗を、児童たちはやさしく声をかけながら愛おしそうに世話をした。

今年は雨が多く、なかなか実がつかず心配していたが、7月の中旬に初収穫をすることができた。

最終的に、346個の凧々子を収穫することができ、少人数でのチャレンジだったが、とても充実した栽培活動となった。

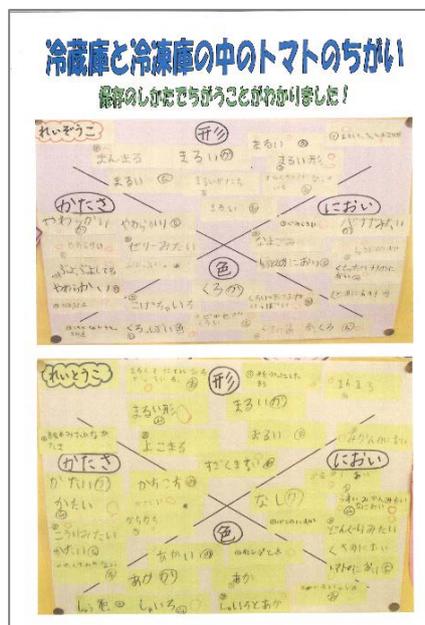
様々な視点から「凧々子」を観察

「凧々子」の初収穫の日には、収穫した「凧々子」を観察した。切って断面を見たり、においをかいだり、実際に食べてみたりした。よく熟れた赤色の「凧々子」とまだ熟れていないピンク色の「凧々子」の食べ比べを行い、「ピンクの方はまだすっぱい」など色の違いは味の違いにもつながるということを実感

することができた。

また、収穫した「凧々子」を2ヶ月間「冷蔵保存」と「冷凍保存」をし、保存方法の違いによる観察も行った。

保存方法の違う2つのトマトを「色」「形」「におい」「かたさ」の4つの視点で比べた。同じ日に収穫したトマトでも、保存方法が違ふことで変化の違いがあるとことがわかった。



先生から一言！実践を通して

2年生9名で力を合わせて「凧々子」の栽培に取り組みました。

2016年は雨が多く、実がなかなかならず心配でしたが、346個の「凧々子」を収穫することができました。

そして、児童が意欲的に栽培活動に取り組むことができるよう、「りりこはかせ」というキャラクターを作り、「凧々子」の生長や栽培に関する資料を作成しました。栽培の手順や、観察カードなども手作りし、掲示方法も工夫しました。

収穫した「凧々子」を使って、保護者と一緒にピザを調理しました。包丁を上手に使い「凧々子」を切ることができました。みんなで一生懸命育てた「凧々子」の味は格別でした。

「凧々子」の栽培は、大変充実した活動になりました。



受賞理由

少人数ながら、児童の皆さんが畑の準備から収穫まで自発的に取り組まれていて、熱意を感じました。「りりこわくわくプログラム」サイトにある資料を活用いただき、掲示物などをわかりやすく作成されていました。また栽培の随所で凧々子を比較するなど、児童の皆さんの興味を引く素晴らしい取り組みでした。